

第1回豊明市総合教育会議 会議録

日時：令和3年12月9日（木）午後2時00分～

場所：豊明市役所 新館3階 教育委員会室

構成員

市長 : 小浮 正典
教育委員会 教育長 : 伏屋 一幸
同 教育長職務代理者 : 長山 加代子
同 委員 : 久留島 夕紀
同 委員 : 青木 睦
同 委員 : 井戸 貴子

事務局

行政経営部長 : 小串 真美
秘書広報課長 : 馬場 千春
同課秘書担当 : 安藤 裕子

関係部局

教育部長 : 藤井 和久
学校支援室長 : 小崎 真
学校教育課長 : 高木 安司

(欠席者なし)

1 開会宣言

2 あいさつ

市長

令和3年4月に二村台小学校が開校したことについて児童や保護者からはほとんど不満がでていない。その理由の一つは、総合教育会議において教育委員と議論を重ね、学校現場が児童や保護者にきちんと説明し、2年かけて二校の児童が交流を深めていき、こうしたいろいろなかたちの努力があつて開校できたからである。この場を借りて、教育委員ならびに学校関係者の皆様のご尽力に本当に感謝申し上げます。もう一つの理由として、唐竹小学校での少人数学

級による児童へのきめ細かい対応が二村台小学校ではできないのではという保護者の心配の声があったが、引き続きモデル校として二村台小学校でも全学年35人学級が実施されていることも効果がとても大きい。これを踏まえ、豊明市は来年度全小学校において、全学年35人学級を先行して実施していく。

教育長

二村台小学校開校に際して、35人学級実施のために教員やスクールサポートスタッフ、養護教諭を市費で配置し、ICT機器を用いた教育のために機器を導入してもらい、電子黒板などは児童や教員にも、とても好評である。市長が非常に教育に理解があり、修学旅行のキャンセル料も他市に先駆けて負担してもらい、コロナの関係で生理用品が買えない家庭への支援や英語教育の特別支援員の増員、日本語コーディネーターの配置などいろいろなことを市で支援している。こういった支援への理解の背景には総合教育会議で市長と教育委員との間で問題意識の共有ができているおかげであるのではと思っている。有意義な会議にしていきたい。

事務局

本日は傍聴希望があるため、委員に確認。異議なしで傍聴者1名の入場を認める。

3 議題

- (1) 豊明市総合教育会議書面会議実施要領の制定について

事務局

制定についての説明がされる。異議なしで承認される。

- (2) 二村台小学校学校評価（保護者アンケート）の結果について

学校教育課長

平成29年度に策定された「豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校のよりよい教育環境を実現するための基本方針」の11項目の中に、統合後に教員・児童・保護者を対象にアンケートを行い、事後評価を行うと定められているためアンケートを今年7月に実施し、9月に保護者へ結果を公表した。保護者への学校評価アンケートの結果は、8つの項目について良い結果としてあてはまるとややあてはまるが90%近い項目が多く、特に「お子様は、毎日楽しく二村台小学校

に通っている。」はあてはまる、ややあてはまるが合わせて93%を占めていた。他にも「お子様は、思いやりや感謝の気持ちをもって、話したり、行動したりしている。」「お子様は、宿題などの家庭学習にしっかり取り組んでいる。」があてはまる、ややあてはまるという回答が多かった。次に保護者と同じアンケートを児童、教員にも行い、回答を点数に換算し平均得点を出して比較した結果、特に「二村台小になって友達が増えた。」「毎日楽しく学校に通っている。」は平均点が高くなっていた。若干平均点が低い項目は「自ら進んで挨拶をしている。」「思いやりや感謝の気持ちをもって、話したり、行動したりしている。」という項目であった。学校はこういったことを捉えながらこれから児童に対する指導をしていくと考えている。

市長

二村台小学校は養護教諭を2名配置するなどメンタル面でのサポートをすることを前提で統合しているためアンケートを実施したのだが、アンケートを行って学校の傾向やいい部分、悪い部分などがわかるため、市内の他の小中学校でアンケートを実施するとよいかと思う。

学校支援室長

市内全校で学校評価のアンケートは、項目が各学校によって少し異なるが、同じように児童、保護者、教員に行っている。

教育長

教員の平均点が低いのはなぜか。

学校支援室長

教員は自分たちのやり方に厳しい目をもっているので、低い評価となっていると考えられる。

委員

アンケートは外国籍の方には通訳したものを配布していると聞いたが、回収率78.8%なので22%近くの非回収の中に外国籍の児童や保護者は多いのか、それともあまり関係はないのか。出していない方の傾向がわかれば教えてほしい。

学校教育課長

詳しい割合はわからないが、委員の言われるように来て間もない児童は関心

が薄かったようである。

(3) 教育委員会学校訪問に係る報告について

委員

外壁のはがれや雨もりなど学校の老朽化等安全面に関わるところの対策を早急をお願いしたい。防火シャッターを閉めると通路がなくなってしまう小学校があった。他に防火シャッターに改善要望がある小学校があった。大宮小学校では建物にひび割れが多く確認されており、南棟と北棟に若干ズレが生じていると思われるので確認してもらいたい。豊明中学校はテニスコートも老朽化し整備に教員が時間をとられている。

古い照明を使っている学校では、照明の明るさが基準ギリギリの照度であり、暗いところがあるので確認してほしい。冬は特に寒いからか明るくなるまでに時間がかかる。

ICT 機器について、電子ディスプレイが黒板の上のほうにあり距離があるため授業がやりにくい。以前は教材ビデオ鑑賞などに使用していたので問題なかったが、今は ICT 機器を使って授業をするので、二村台小学校のような電子黒板に映すことができると授業が効率良く進みやすくなると思われる。タブレットなどの機器は今後、OS やバッテリーの関係で4～5年で機器の更新をしなければならなくなるため、数年先の話ではあるがそのための予算を考えておいてほしい。

市長

タブレット導入は国策であり国費で購入しているが、更新の時期に国ではなく自治体で負担と国から指示が出た場合は、市で負担したいと考えている。電子黒板の導入については令和6年度に小学校、そのあと中学校に導入するよう予算を考えている。委員の言うとおりに、教員も授業がやりにくいし、児童・生徒も画面が見づらいので集中しにくい。自分たちも順番に変えていかなければならないと意識しているが、予算の関係上令和4、5年度導入は難しい。

学校の安全面と照度について、緊急性の高いものは補正予算を組んで、対応していく。

大宮小学校の校舎のひずみはとても気になるが、建物は傾いているのか。ビー玉を転がすと転がるような傾きなのか。

委員

そこまでのものではないが、建物にひび割れが入っている。おそらく地盤沈下

等が影響して南棟と北棟にズレが生じていると思われる。まだ緊急ではないが意識してほしい。

市長

学校などの建物は建て替えると膨大な費用がかかるため、修繕をして長寿化して利用する方向である。我々も意識しておくので、必要なときに調査を行う。

教育長

大宮小学校を見てきたが、まだ深刻な状況ではないが調査はしていこうと考えている。外壁の剥離も、赤外線による調査を行うので、調査結果により危険だとわかったら早急に予算をつけて対応していく。

委員

日本語教育支援のプラスエデュケートの初期教室は今いっぱい入級を待ってもらっている状態であり、初期指導の充実、二村台小学校、豊明中学校以外の学校でも日本語指導のできる体制づくりが必要なのではと思う。全ての学校でとなると難しいと思うので、複数校兼任でもよいので徐々にそのような体制になってほしい。課題としては、話すことはできても、なかなか学習言語が読めないため進学することや、進学したあとも多くの壁があるという現状がある。本人の努力によるところもあるが、義務教育の期間で支援がどこまでできるかを考えると、やはり日本語を「話せること」「理解すること」「読み解く力を養うこと」が重要であると考えます。市には様々な支援をいただいているが、日本語教育支援をもう少し充実していただけたら、外国籍ルーツの子どもたちの明るい未来があるのではないかと思います。

市長

市内のある企業の会長が外国人の日本語教育に非常に理解があり、毎年多額の寄付をいただいているが、その企業の会長が、今就職するにあたって高校卒業が重要な要件になっている状況であり、働きながら定時制を選択する子と違い、学力がないため定時制に行き、中退する子もいるため、どの子も全日制の高校を選択できるような学力を身につけてほしいという理念をおっしゃっていた。試験の問題文が日本語なので、話せるだけでなく問題を読み取って書けるところまで教えることが大変重要であると我々も認識している。二村台のあたりだけでなく、市の南のほうでも外国籍の方は増えており、国や県の補助を活用して、順番に支援の拡充を行っていきたい。教育委員会で雇っていただいた支援員は非常に熱心であり、とても感謝している。

教育長

日本語を各学校で教えている先生たちへの研修をしたり、直接教えに行ったり、プラスエデュケートと綿密に打ち合わせをしたりといろいろ熱心にしてくださっている。その方を核として、もう少し支援を広げていき、できるだけ増やしていきたいと考えている。

委員

学校のハード面について、他の委員からも話が出たが、コンセントが斜めについているところや、扉がたくさんついてるところなどどうしてこういうものができてしまったのかと思われるところがあり、今後順に修復はされると思うが、安全面においても学校という長く使われるところなので、工事の際にもう少し厳しい目で点検してほしい。

ソフト面での問題点として市内全校でスクールカウンセラーの予約がいっぱいであり、今後予約が取れない状況になってしまわないかと心配している。カウンセラーに相談した人たちから、教員と違う第三者として、専門的知識や話を引き出してくれる技術があるからなのかとても話がしやすいと聞いている。スクールソーシャルワーカーの増員のおかげで、ソーシャルワーカーが支えてくれているから学校に出てこられている子どももいると聞いている。私たちが想像もできないような状況下にある子どもたちがいるが、その子たちと学校を繋げてくれる役割をソーシャルワーカーがしてくれている。カウンセラーを充実してもらえると、子どもたちの心が安定し、不登校を防ぐことができるかもしれないため、対応の時間を増やすか、増員をお願いしたい。

市長

スクールカウンセラーは増やしましょう。豊明市としては「誰ひとり取り残さない」という方向に向かっているので、きちんとした方に来ていただくこと前提で増やしていきたい。スクールソーシャルワーカーに関わる児童・生徒の多くが、その子自身のことだけでなく、家庭など他にも様々な問題を抱えており、福祉関係の部署と繋いでもらわなければならないような複雑な案件もあり、ソーシャルワーカーの負担が大きくなっている。来年度から市は社会福祉協議会とともに重層的支援を行う。貧困や親が働けない、障害がある家族を世話している、ネグレクトなどのたくさん問題を抱えている子について、福祉関係の部署と教育関係の部署だけでなく市役所全体で支援に取り組んでいきたい。

教育長

親が悩みをクリアできないとそれが子どもに伝染し、子どもが不幸になってしまうという連鎖があり、親の気持ちも解すことが必要かと考えている。今来ていただいているスクールカウンセラーは本当に優秀な方でよくやってくださっていて、市と県の両方の予算をすべて充てて、対応してもらっている。気持ちに寄り添っていただける臨床心理や精神の専門の方を探して、カウンセラーを増やしたいと考えている。

市長

人員を増やしていつている状態のため、ハード面の予算が後回しになっている部分がある。市役所等いろいろな公共施設も老朽化しているが、学校は優先順位の高い施設なので、より安全性を考慮し、教育関係の施設を先に修繕したいと考えている。

委員

二村台小学校の学校訪問では、支援員が充実していることや、電子黒板を使ってとてもわかり易い指導がされていることを知り、子どもたちを学習から取り残さない授業がされていることを実感した。学校間で差があってはいけないので、なるべく早く他の学校にも教育環境を整えてほしい。

不登校の問題について、子どもの数が減っている中で、増え続けているのは普通ではない状況であり、コロナによる休校があったものの減る傾向にない。コロナ禍以前に行われたある調査では不登校の子の3割ほどが家に居場所がないと回答している。不登校でも決して家の居心地が良いわけではない、居場所がない子どもたちに公教育がどのように関わっていけるのか。教育支援センターの役割を、現場におまかせではなくて、市の方針を立て、それに沿って子どもたちに関わってほしいというのを示したほうが支援の筋道が立つのではないかと思う。子どもたちの目線で考え、教育支援センターに来られる子が一人でも二人でも増えて、学校・家庭ともに居場所がない子の居場所の一つとなるような場であってほしい。

GIGA スクールについて、デジタル庁が公表した調査の中で、子どもたちにICT 機器を学校で使用しているときに困ったことはあるかの問いに対し、小中学生ともにリテラシー（あるものに対し、適切に理解・解釈し、分析し、記述・表現する能力）について困っていると答えた割合が高かった。ICT が進んできても、言語などを理解する能力が必要なため、理解のためにはやはり教育の基盤が必要である。そのようなことから外国籍の子には、支援を増やしてもらいたい。

市長

豊明市の規模で、教育支援センターが2か所あるところは県内では他にないが、胸を張ることではなく当たり前にしていきたい。学校に行けなくてもどこかに居場所があれば自分の人生をどこかの時点で自分の思い通りにやれるチャンスが継続できる状態だと思うが、どこにも居場所がないということはとても望ましくないことである。教育支援センターは子どもの状況に応じて、学校にいるときのように生活したい子はそのように対応し、勉強から遠ざかったほうが望ましい子はそのような対応して個人に寄り添ってやっていきたい。フレンドひまわりの事業の積み重ねが引き継がれ、市のひきこもり対策や他の事業も同じ理念で個人に寄り添った対応をしている、教育支援センターでも同じような対応を継続していきたい。

学校支援室長

教育支援センターの担当者には、居場所づくりとしての支援センターの運営をと常々伝えていたが、「学校に復帰させたい」という思いが強過ぎてしまうこともあった。一律の対応ではなく、個々に応じて柔軟な対応をしてほしいと伝えており、職員も以前と変わり、体制も変わってきたため、入級者が増えている。

教育長

学校訪問でフレンドひまわりへ行ってきたが、ここは本当に何のための施設なのかという本質的な議論をした。施設の要綱自体が開所当時のままでかなり古く、最終的には学校に復帰するための施設と定められており、そういった対応をしていたこともあった。しかし今は学校に居場所がない子どもたち、学校に行きたくても行けない、だからといって家庭の居心地も悪いという子もいるので、居場所づくりという視点で対応しているときいた。今、中学校では保健室登校や別室登校をやっており、空いている教科の教員が対応しているが、小学校では担任制であり、空いている教員がいないため別室登校等ができない。他の自治体で、支援員を雇い、別室登校の教室運営をやってもらっているというところもあり、やってみたいと考えているが、予算の課題がある。

市長

委員の皆さん全員にお話を伺いましたが、他の委員のお話を聞いて何か補足することなどはありませんか。

委員

ICT 関連のことで、学校から、もし子どもが SNS など個人情報を拡散してしまったなどというトラブルが発生した場合に相談できる体制があるのかと聞かれたが、現状はどうなっているか。タブレットもよいが、リアルで体験できるような機会があるとよいと思う。学校は地域の方々にとっても協力をいただいているので、子どもたちが出て行って学べるような受け入れ先があるとよい。タブレット使用の際に、カーテンを閉めて光を遮るのだが、照明の問題もあり、真っ暗になる。ブラインドなど光を調整できるものになるとよいと思う。

市長

ブラインドは昔あったが、危険だからか何かの理由で学校からなくなったのではないだろうか。地域に子どもたちを受け入れてもらうことは、ありがたいことであるし、地域側も望んでいる。子ども会が機能している地域は、地域の行事に子どもたちもたくさん参加している、小学校までは地域行事に参加していても、中学校に上がると繋がりが切れてしまう傾向があり、そうすると大人になっても関係が途切れたままになることが多いので、継続して子どもも地域と繋がることができるようにと地域側も認識はしている。ICT トラブルはまだそのような想定をしていないが、どんな小さなことも相談できるように状態にしていきたい。

教育長

地域の人も学校を通じて地域の人同士が交流して、それにより地域がまとまっていくとよいと考えている。令和4年度から学校に入るコーディネーターを雇う予定である。教頭を補佐しながら、地域との結びつきを支援する役割をしていただき、コミュニティースクールを進めていきたい。

市長

他に何かご意見はありませんか。学校関係だけでなく、生涯学習に関することでもよいです。

委員

文化会館の植栽が枯死しているところがあり、この先どんどん枯れていってしまうのではないかとと思われる。調査をしてほしい。豊明市の文化・芸術について今後市としてはどのような方向性を考えているのか知りたい。

市長

枯木の問題は調査します。文化・芸術について、私個人の考えですが、市民の皆さんが鑑賞するだけでなく、参加できるような環境を整えたい。今は文化会館だけなので開催が取り合いになってしまう現状があるが、共生交流プラザができるので、文化会館と二つの施設での開催をうまく棲み分けできるようにしていきたい。

委員

大きな施設ではなく小さなカフェやライブハウスなど、例えば岡崎市のジャズストリートのように街のいろいろなところで、音楽が聴くことができ、アートが観られて、そういったことに市民のプロやセミプロの関係者をうまく参画できて、市民が心地いい気持ちでやれるものがあるとよいと思っています。

市長

市制50周年で合唱のイベント企画を予定しており、3年かけて実行しようと考えている。舞台の人だけでなく観客も参加できるようなものを、1回限りでなくて地域におろして広がるものを考えている。豊明市内には、区などの仲間寄り合っているサロンが70ほどあり、合唱をやっているサロンが多く、こういう企画から市民の居場所となるようなものをつくれるとよい。芸術が居場所づくりの入口となるようにと考えている。

委員

フレンドひまわりに通っている子どもから、来れたり来られなかったりするけど給食を続けてほしいとのお願いがあった。

教育長

給食は継続して出していきます。給食を食べることが、登校への一つのモチベーションとなっている。

事務局

意見や質問も出尽くしたようですので、以上で総合教育会議を終了します。